



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算補足資料

2026年8月12日



1. 2026年12月期第2四半期（中間期）決算概要	P. 2
2. 事業進捗状況	P. 5
3. ソリューションサービス事業	P. 8
4. エンジニアリングサービス事業	P. 11
5. 重点施策の取り組み状況	P. 14
6. 業績予想	P. 28
7. APPENDIX	P. 30
OGI GrowUp2028 概要	P. 31
会社概要	P. 36

CONTENTS



2026年12月期第2四半期（中間期） 決算概要

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

2026年12月期第2四半期（中間期）決算概要

売上高
3,695百万円
(前年同期比 2.3%増)

売上総利益
995百万円
(前年同期比 13.4%減)

営業利益
438百万円
(前年同期比 31.2%減)

- BIM関連業務を中心に引き合いは増加、受注は堅調に推移し、サブコン顧客も拡大
- 住宅設備・建材メーカーを中心に顧客接点ソリューションの導入が堅調に推移
- 一部の不採算案件の影響により一時的に利益が低下
- 国土交通省による「直轄工事でのBIM/CIM適用」によりツール構築を伴うCIM活用コンサルティング関連案件の売上高が堅調に推移
- 河川の洪水対策支援の売上高が大幅に減少したものの、水道事業の耐震・維持管理支援業務の受注が拡大
- 高層住宅建設などの都市開発に係る案件をはじめとした民間系都市開発事業支援の売上高が大幅に伸長

2026年12月期第2四半期（中間期）決算概要

（単位：百万円）

	当中間会計期間		前中間会計期間		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	3,695	—	3,613	—	82	2.3%
売上総利益	995	26.9%	1,149	31.8%	△ 153	△13.4%
販売費及び一般管理費	557	15.1%	512	14.2%	44	8.8%
営業利益	438	11.9%	637	17.6%	△ 198	△31.2%
経常利益	468	12.7%	662	18.3%	△ 194	△29.4%
中間純利益	325	8.8%	462	12.8%	△ 136	△29.6%
1株当たり中間純利益	57.07円		81.03円		△ 23.96円	△29.6%



課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

5

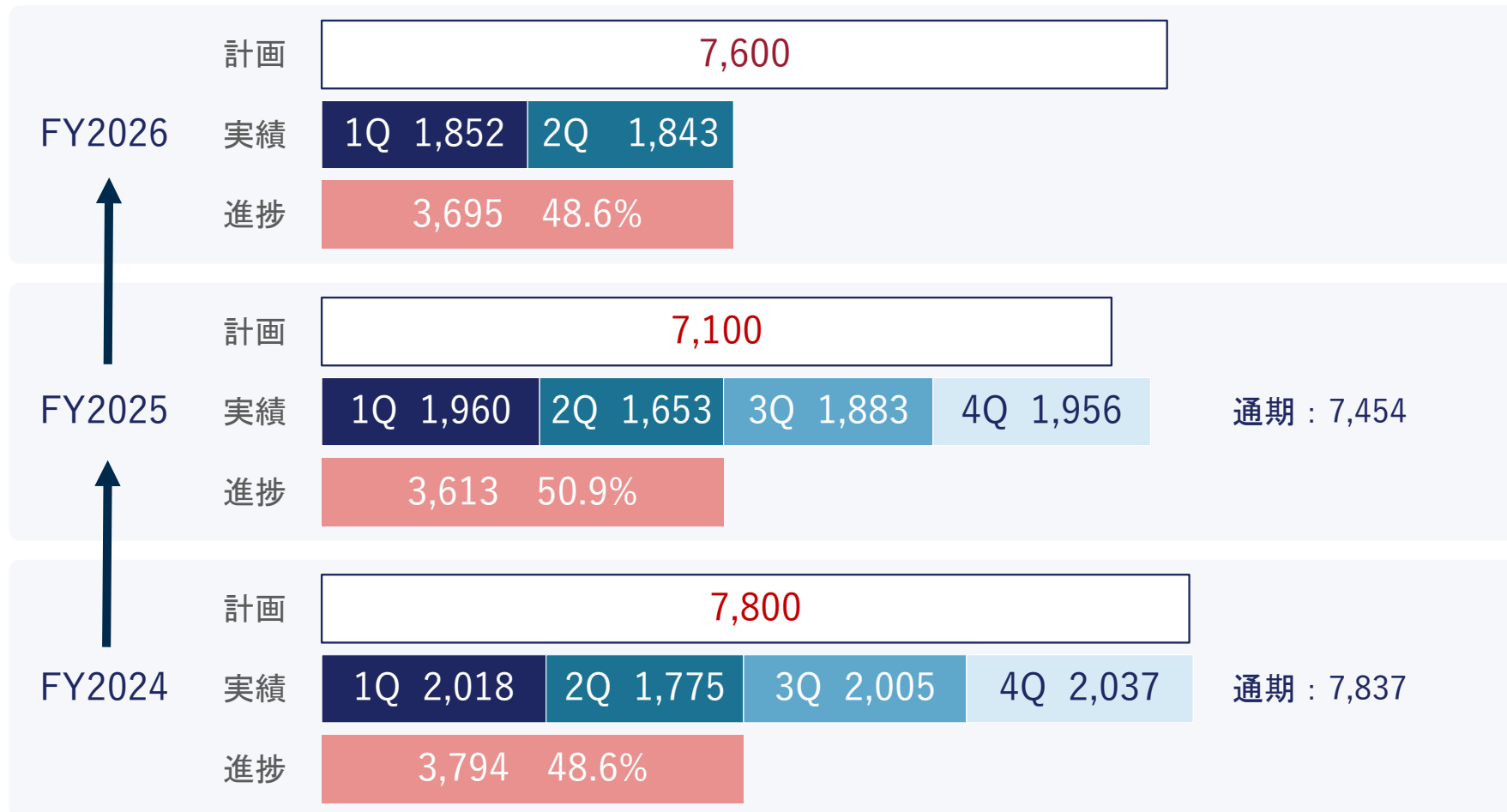
事業進捗状況

2

事業進捗状況（売上高）

通期売上高予想に対する上期進捗率

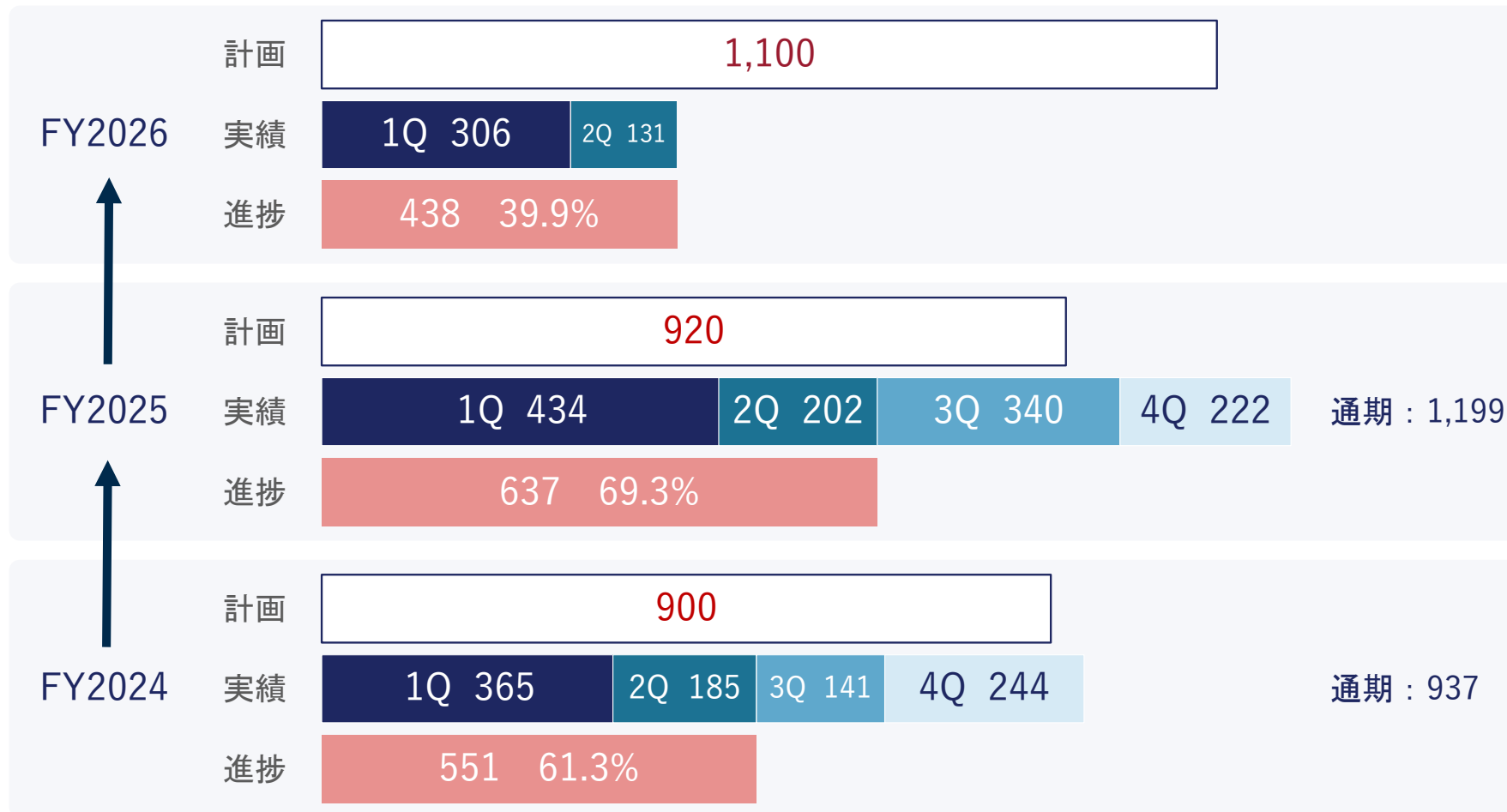
（単位：百万円）



事業進捗状況（営業利益）

通期営業利益予想に対する上期進捗率

（単位：百万円）





ソリューションサービス事業

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

ソリューションサービス事業

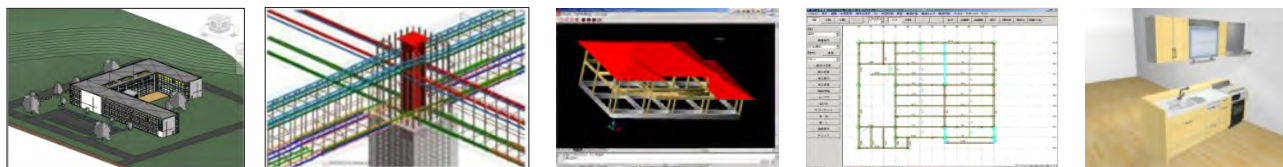
お客様が抱える課題の抽出やニーズの確認、システム導入後の効果の検証などをお客様目線で行い、当社保有のパッケージを活用した業務の効率化を実現します。

製造
DX

製 造業のお客様の課題に対して、自社開発パッケージとCAD技術を活かし、お客様のビジネスプロセス（営業活動～設計～アフターサービス）を改善するサービスを提供しています。

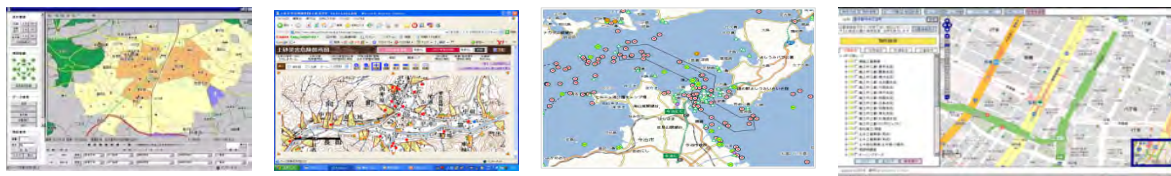


建 設・設備業のお客様に対して、BIM、CAD、施工管理、設備設計など幅広い領域で、お客様のビジネスプロセス（設計、構造、省エネ、施工、点検）を改善するサービスを提供しています。



建設
DX

地 理情報システム（GIS）を活用し、電力・ガス・建設・不動産・物流などのお客様の業務効率化の支援をしています。

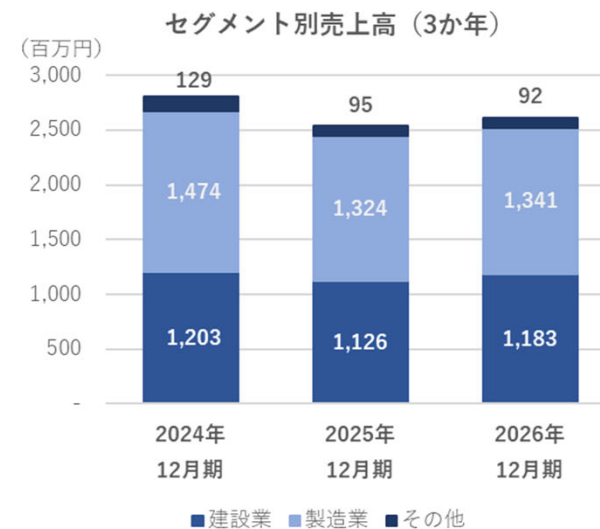
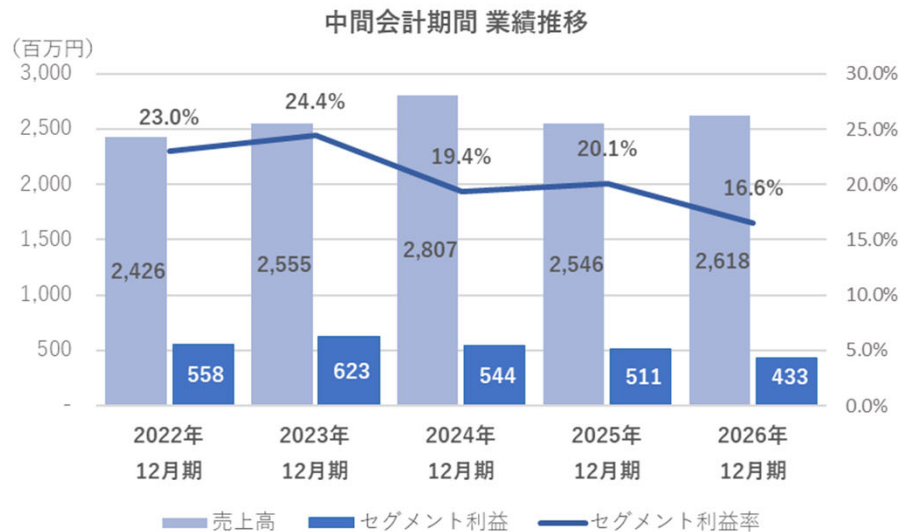


ソリューションサービス事業

業績推移

(単位：百万円)

	中間会計期間 業績推移				
	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期	2026年12月期
売上高	2,426	2,555	2,807	2,546	2,618
セグメント利益	558	623	544	511	433
セグメント利益率	23.0%	24.4%	19.4%	20.1%	16.6%





エンジニアリングサービス事業

4

エンジニアリングサービス事業

エンジニアリングサービス事業は3つの分野を柱に、高度な解析・計算技術を活用した課題解決型のコンサルティングサービスで社会に貢献しています。

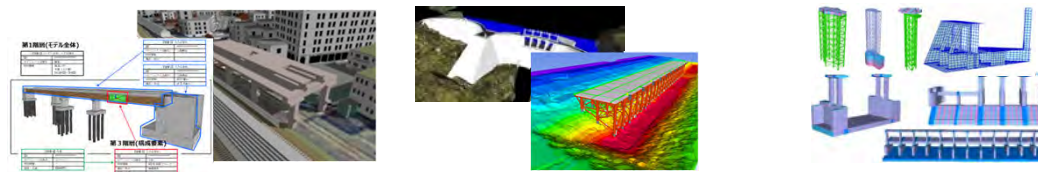
防災
減災

防 災・減災分野での専門性と数値シミュレーション技術を活かし『防災・減災対策』『社会資本の維持管理』『安心・安全な生活』に関するエンジニアリングサービスを提供しています。



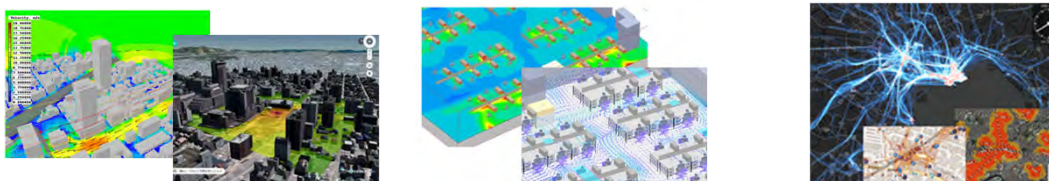
建設ICT
CIM

建 設ICT・CIM分野では、建設ICT、CIMプラットフォーム、3次元モデリング、GIS技術を活用し、建設生産性の向上のための情報基盤整備、公共・インフラ分野に関するマネジメントを支援しています。



環境
まちづくり

環 境・まちづくり分野では、環境・社会調査技術、人流データ等の解析技術を活かし『生活環境改善』『カーボンニュートラルな社会の実現』のためのコンサルティングサービスを提供しています。

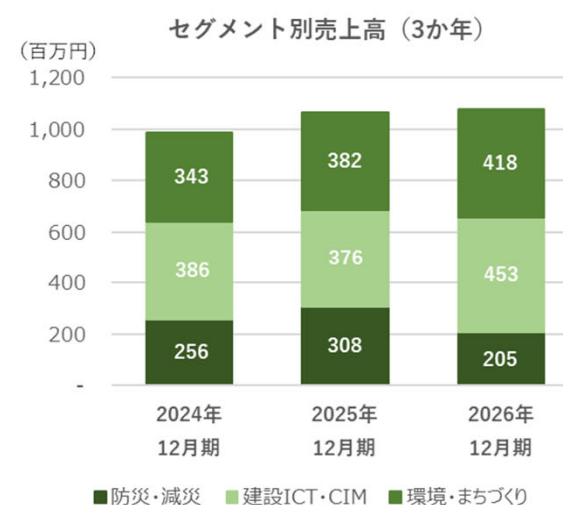
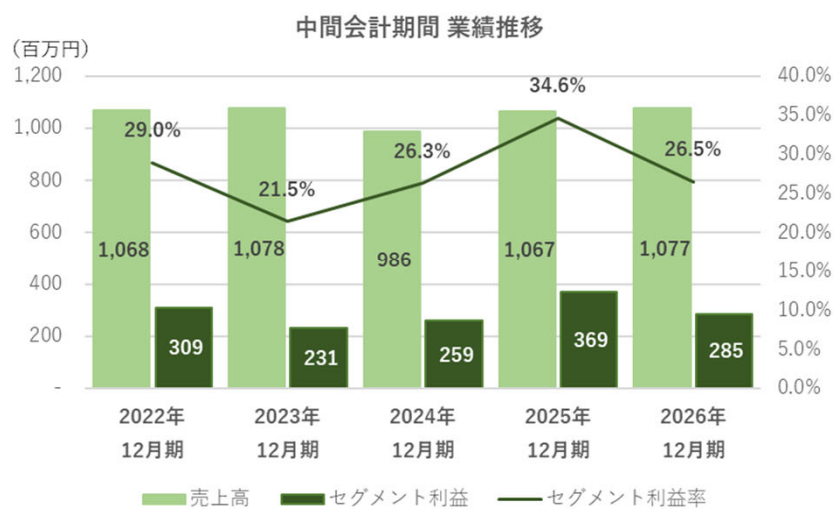


エンジニアリングサービス事業

業績推移

(単位：百万円)

	中間会計期間		業績推移		
	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期	2026年12月期
売上高	1,068	1,078	986	1,067	1,077
セグメント利益	309	231	259	369	285
セグメント利益率	29.0%	21.5%	26.3%	34.6%	26.5%

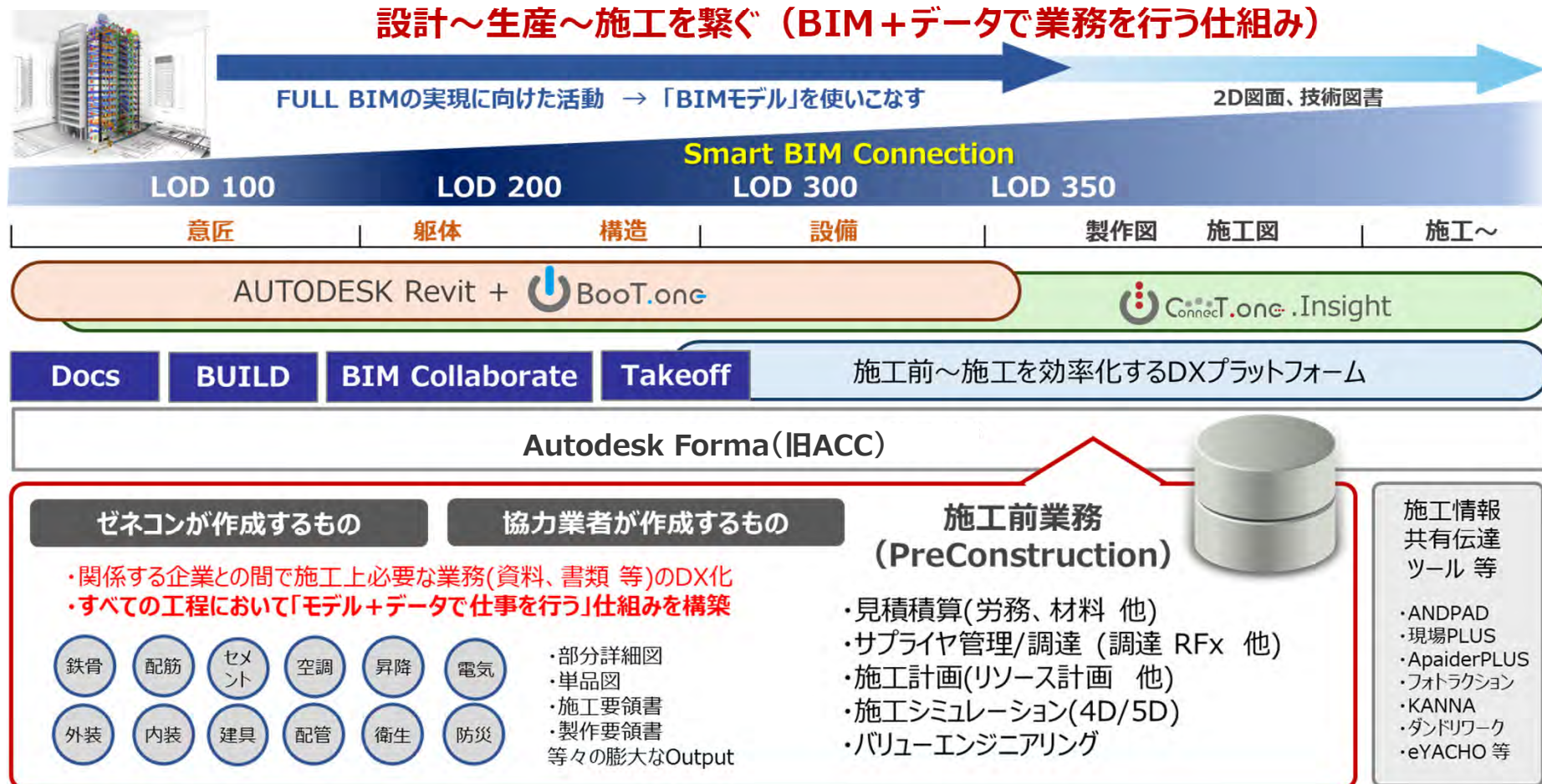




重点施策の取り組み状況

5

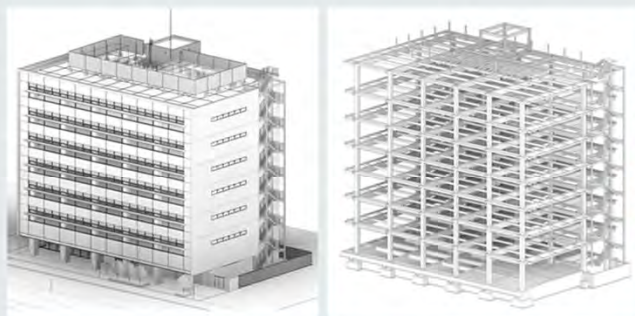
重点施策の取り組み状況（建設）



重点施策の取り組み状況（建設）

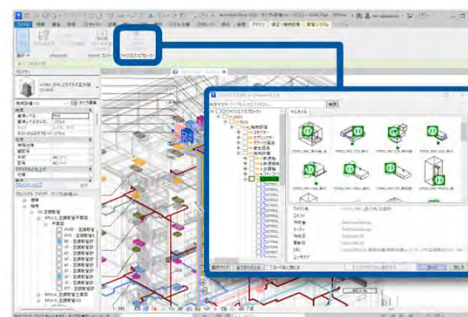
BIMモデルを中心に、ゼネコン・サブコン・設備メーカーを繋ぐFAMILY EXPLORERを提供。今後、機能拡張を進め、利用者の利便性を高めていく。

1 建築モデル取り込み

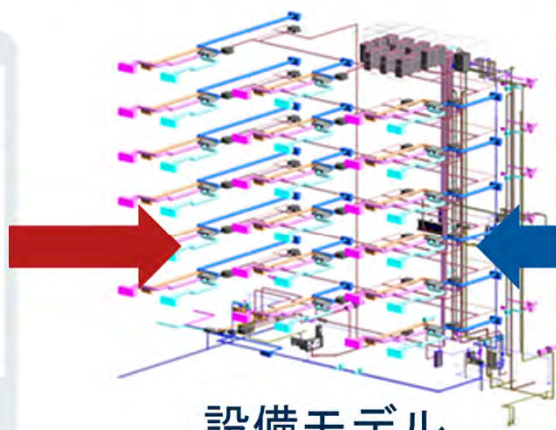


建築モデル

Autodesk Revit

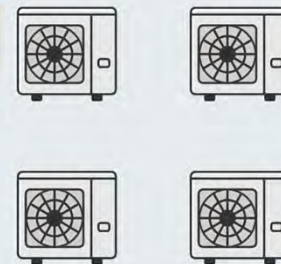


2 機器を選定・配置



設備モデル

機器
配置

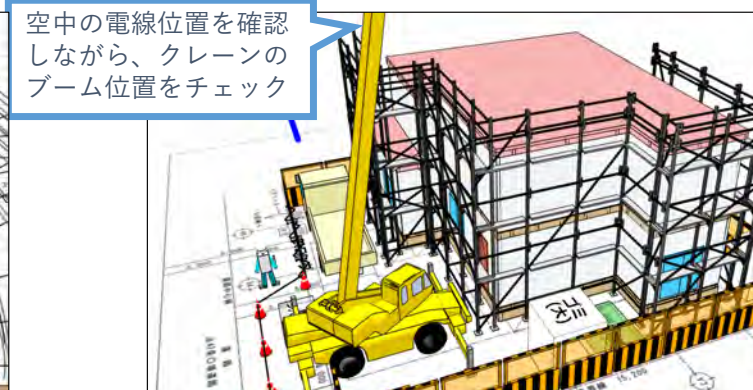


BooT.one Family Explorer

重点施策の取り組み状況（建設）

WebConstructionPlanner（3D施工計画支援システム）

建設工事を円滑に進めるうえで重要な仮設計画を行うサブスクリプションサービスをリリースしております。すでに大手ハウスメーカーの新築全棟で採用されており、順次ユーザを拡大中です。

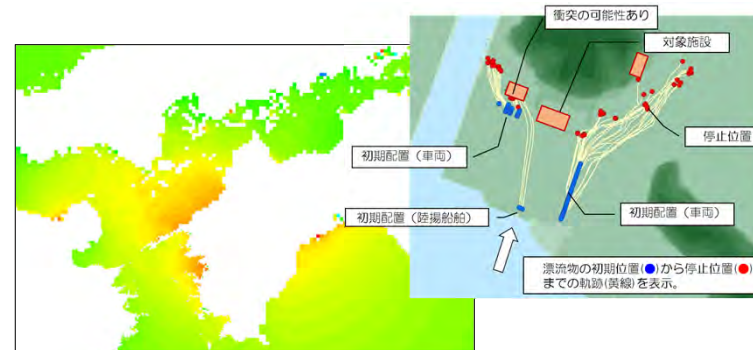


重点施策の取り組み状況（防災・減災）

防災・減災技術（Bigdata, IoT）を新たなまちづくりへ活用



3D都市モデル(PLATEAU)を活用した
津波浸水シミュレーション



高潮解析/沿岸域漂流物シミュレーション



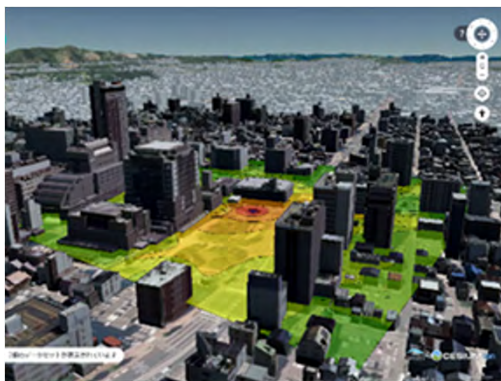
上下水道 維持管理対策支援
(Infoworksによる内水氾濫解析、管渠リスク評価)



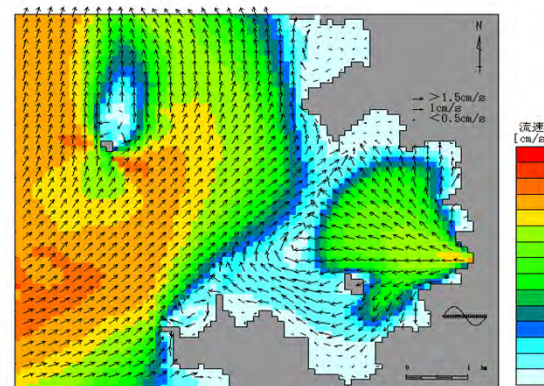
地震災害等による帰宅困難者対策支援

重点施策の取り組み状況（環境解析・まちづくり）

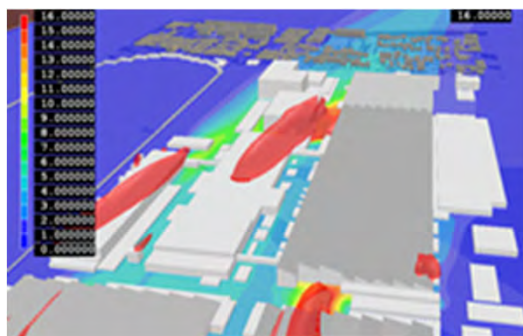
様々な環境シミュレーションを新たなまちづくりへ活用



3D都市モデルを活用した環境シミュレーション



潮流シミュレーション



悪臭対策・大気拡散シミュレーション

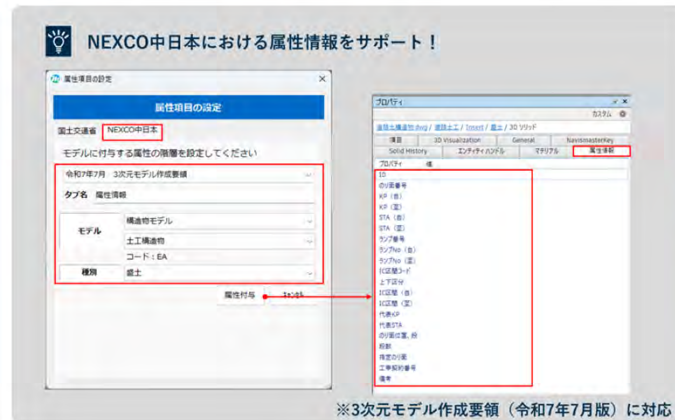


人流データ分析とまちづくりシミュレーション

重点施策の取り組み状況（土木）

toCIMサービス BIM/CIM属性管理ツール『Navismaster』の展開・普及

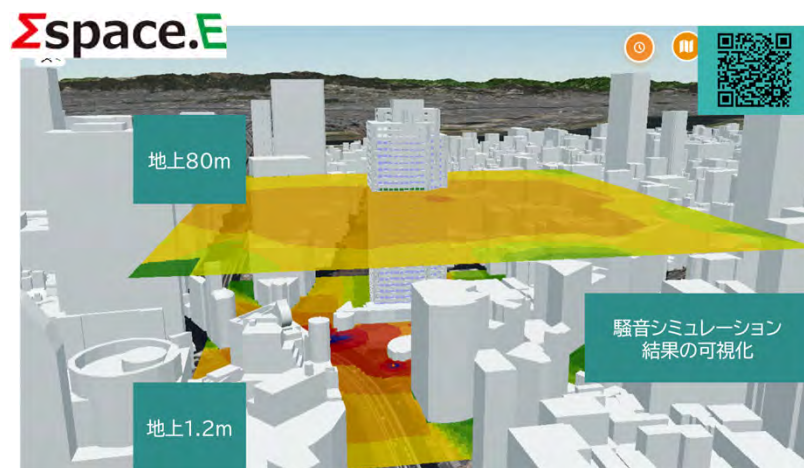
国土交通省は、2023年度より「直轄工事でのBIM/CIM適用」を原則化しております。BIM/CIM業務の効率改善を目的に属性管理作業をサポートするアドインツール『Navismaster』を2022年6月にリリース、2025年2月にはNETISに登録されました。市場のニーズを取り込みながら2026年4月にはVer3.9へとアップグレードを行い、国土交通省「令和8年BIM/CIM取扱要領（R8.3）」の属性項目設定に関するオブジェクト分類に対応した機能を搭載しました。今後もオンライン体験会などの普及活動を行うとともに生産性向上と属性情報の利用による仕事の効率化に向けたシステムの展開・開発に注力してまいります。



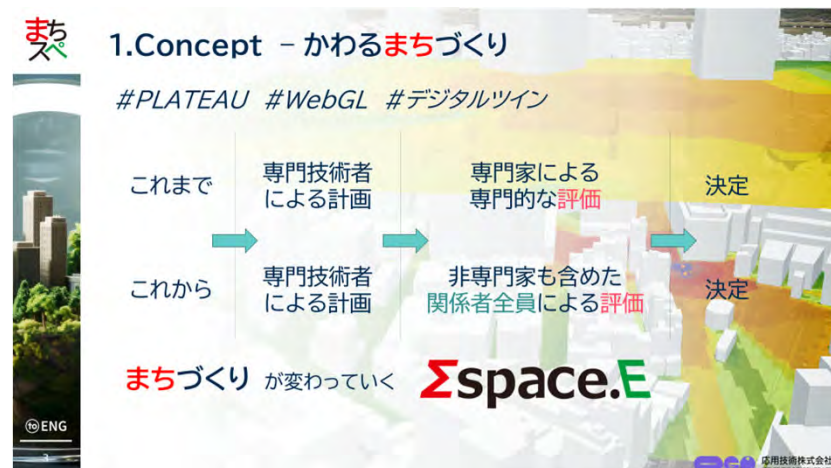
重点施策の取り組み状況（都市データ利活用）

toENGサービス デジタルツインプラットフォームの利活用

国土交通省が推進する「PLATEAU」を活用したクラウドベースの環境シミュレーションサービス「Σspace.E」（以下「まちспе」）を2024年11月28日に公開しました。対応エリアを28都市へ拡大し、予測項目として壁面を含む日影解析、騒音解析、風況解析を無償提供中です。「まちспе」ではWebブラウザ上で身近な環境の簡易解析とその結果を可視化・共有することが可能です。今後は有償化を視野に、都市計画事前検討や歩行者視点の景観可視化、下水道等維持管理（電子化納品対応）等、ユースケースの紹介を行いながらコンテンツの充実を図ります。

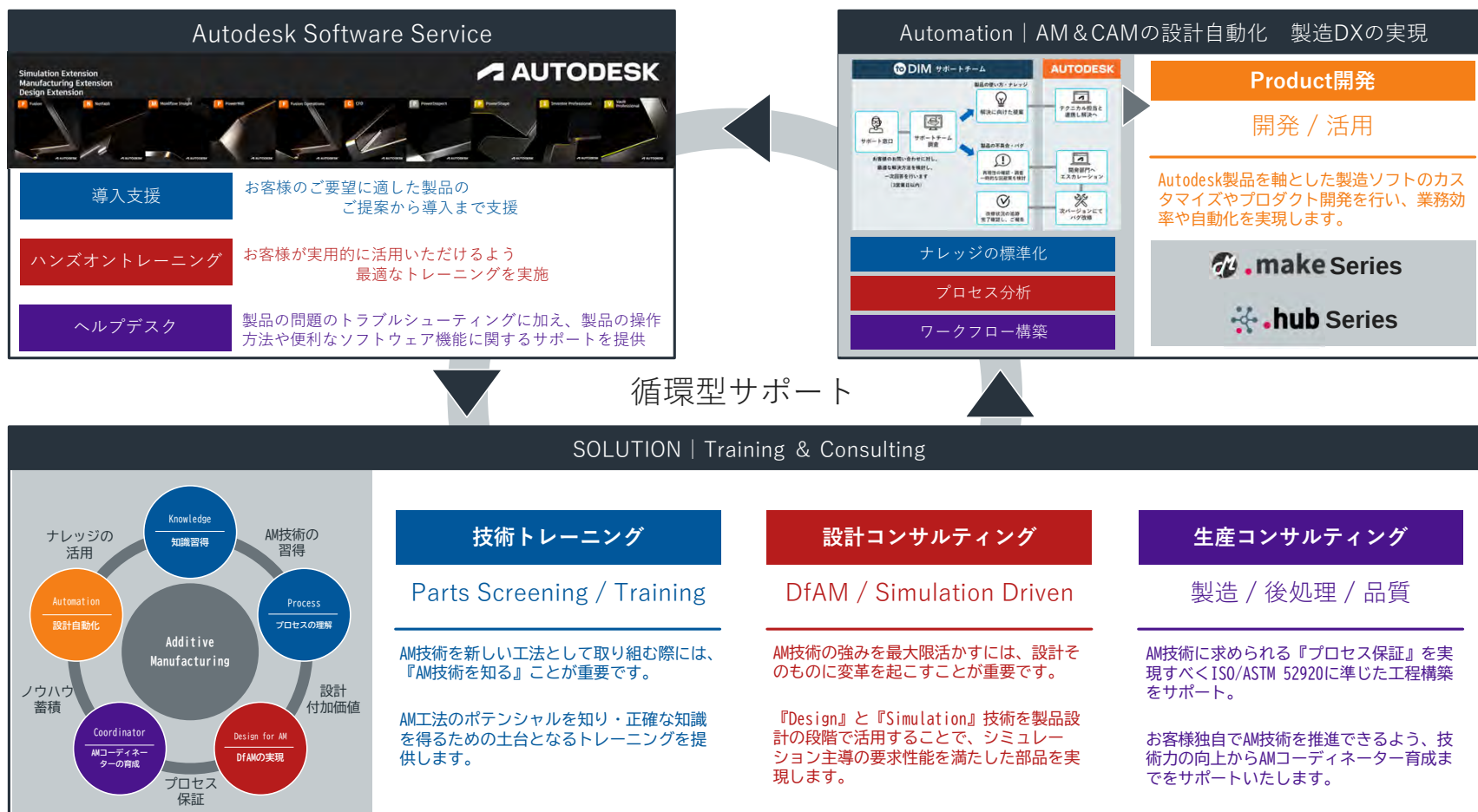


PLATEAUデータで環境シミュレーションを！



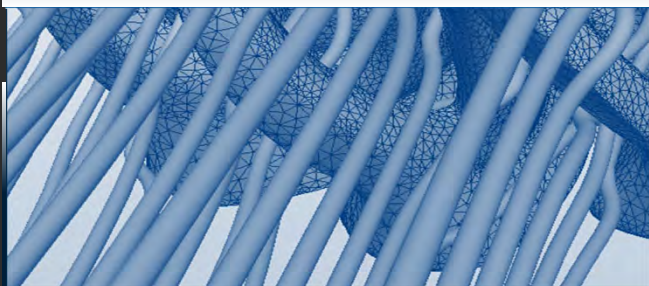
重点施策の取り組み状況（ものづくり）

製造業におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現するため、プロセス全体を最適化



重点施策の取り組み状況（ものづくり）

④DIM | Service Category



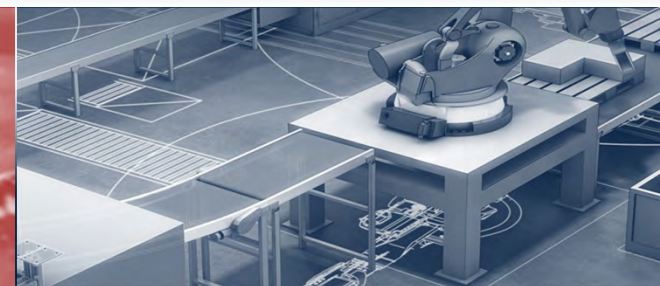
部品特性の最大化を実現

製造工法にとらわれない新たな設計手法



オペレーション時間の短縮

技術ノウハウの活用



工場レイアウトの最適化

安価な料金プランでプロセス管理を実現

製造工法にとらわれない！部品特性の最大化！



軽量化
部品一体化
剛性の向上
流速の均一化

①Design optimization

部品特性の最大化を実現

製造工法にとらわれない新たな設計手法



製造時間短縮
コスト削減
歩留まり率向上
安定性向上
リードタイム短縮
サイクルタイム改善

③製造工法の選択

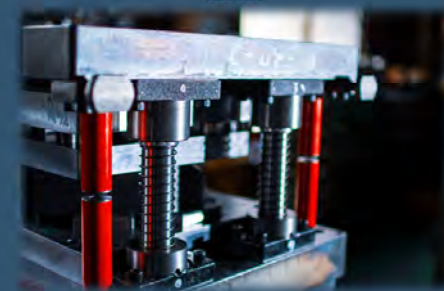
金属積層造形



切削加工



金型



②Automation

オペレーション時間の短縮

技術ノウハウの活用

25

CAD/CAMオペレーションは自動化の時代へ！

Automation Package
MillEdge.hub

『形状自動認識機能』により、CAMの全プロセスを自動化！！

『ワンクリック』でモデリング作業 / パス生成 / 加工指示書生成まで全て自動化



クリック

自動化①：前準備モデリング

形状の特長を判別し、自動で色情報を追加

加工延長面/穴埋めの作成

治具の取込

自動化②：パス生成

色情報と工程情報の連携

無駄なパスデータを削減

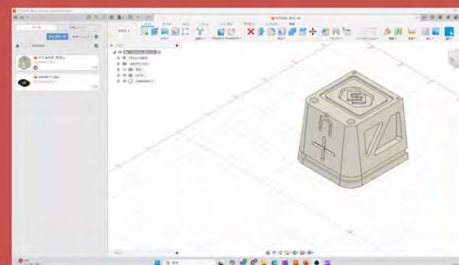
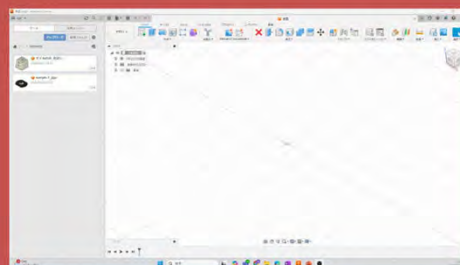
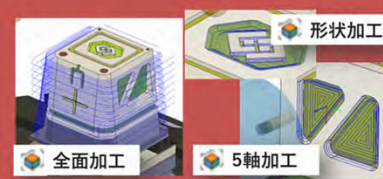
干渉物としてパスデータの生成を回避

自動化③：加工指示書

ルールに沿って自動作成

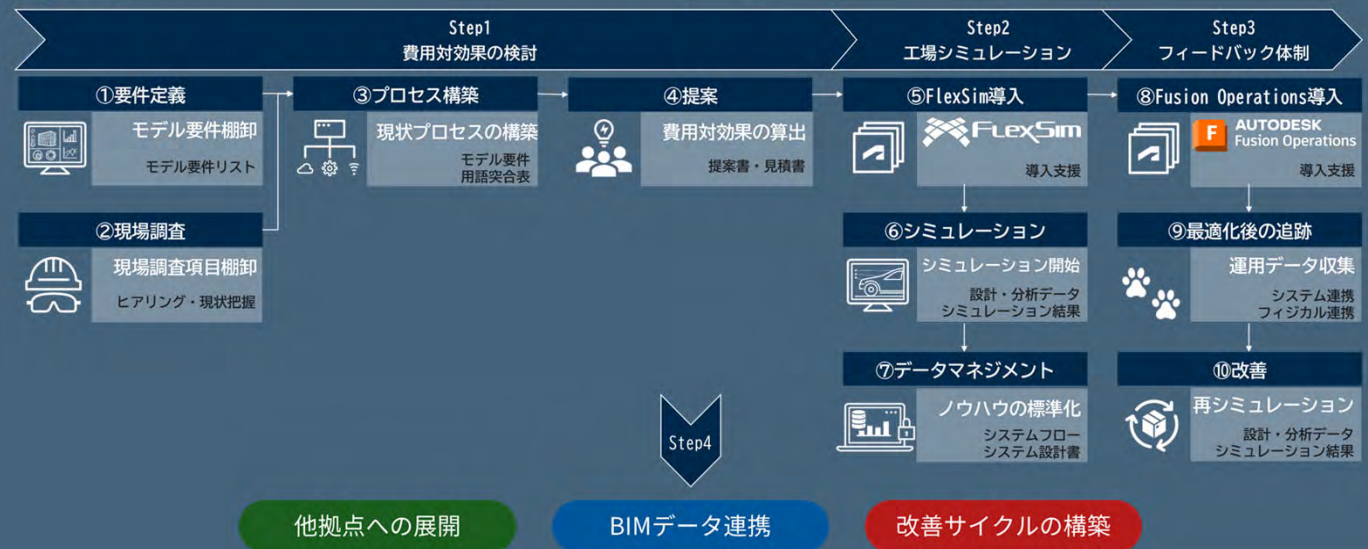
シーンに合わせたテンプレートの活用

CAMに持たない情報も追加可能



『REAL』 『MUST』 『WILL』 製造現場や物流倉庫などのレイアウト最適化

1.	現状プロセスの調査により費用対効果を検討	2.	シミュレーション環境を構築（モデル・パラメータ）
3.	現場最適化後の運用データを収集し、更なる効率化を実施	4.	BIMデータと連携し、工場全体のデジタル化を実現

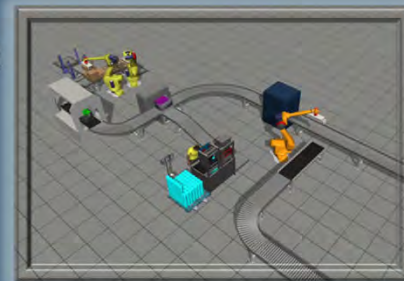


③Digital Factory

工場レイアウトの最適化

安価な料金プランでプロセス管理を実現

- ・お客様の現状のプロセスを数値化し、工程全体の整理
- ・ソフトウェア導入に向けた費用対効果を検証
- ・パラメータを徹底管理。
- ノウハウの標準化に向けたデータマネジメント



重点施策の取り組み状況

建設DXを現場に定着させる
現場特化型AIエージェント と 人の伴走型支援

Applied Build Core

AUTODESK **Forma** **AI**

Autodesk Forma (旧ACC) に蓄積された
日報や画像データを自律型AIが解析
リスク予知や最適な「次の一手」を自動提案



toBIM



AI活用のよくある課題

- 現場の負荷 「入力作業が負担になり、活用が形骸化している」
- 精度の壁 「現場特有のデータが整理されず、AIの回答が使えない」
- 成果の不在 「PoCを繰り返すばかりで、全社展開の投資判断ができない」

Applied Build Coreの 絶対に定着する3つの仕組み

Applied Build Coreの 自律思考型AIプラットフォームとBPOが 現場のDXの定着を支援

Applied Build Coreは「自律思考型AIプラットフォーム」と「システムを回すバックオフィス（BPO）」で貴社のDXを現場の「当たり前」へと定着させます。運用体制やフェーズに合わせ、ボトルネックになりがちなデータ整備・入力業務の実務まで柔軟にサポートし、AI投資を早期に確かな成果へと導きます。

お客様のフェーズに合わせた
「柔軟な運用・実務支援」が現場へ定着を
促し、最速で導入効果を実感できます。

IT × シームレスなデータ統合

Autodesk Forma等の既存データ基盤から、日報・施工写真・図面データをAPI経由で自動取得。情報の断絶をなくし、AIが即座に分析可能な「生きたデータ」として一元管理・活用します。

AI × 自律駆動マルチエージェント

分析・計画・生成など役割の異なる複数のAIが協調。過去の実績やナレッジを自ら検索し、人間が気づきにくいリスクや改善案を自律的に提示します。プラットフォームの根幹にHuman in the Loopの仕組みを実装。使えば使うほどAIが賢く成長し続ける環境を提供します。

BPO × 価値ある運用サポート

建設用語や現場特有の曖昧なデータを、専門スタッフがクレンジング。運用開始後はAIのプロンプトを継続的にチューニングします。貴社の「暗黙知」を学習した専用AIへと育て上げるプロセスまで完全に陪伴します。



課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

28

業績予想

6

業績予想

(単位：百万円)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	
通 期	7,600	2.0%	1,100	△8.3%	1,132	△11.5%	782	△14.5%	136.96円

売上高営業利益率：14.5%

売上高経常利益率：14.9%

(注) 本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績目標の達成に向けて、引き続き尽力してまいります。



課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

30

APPENDIX

OGI GrowUp2028

会社概要

7



OGI GrowUp2028 概要

中期経営計画（2024年～2028年）

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

自社を取り巻く環境と当社事業としての認識

社会環境

気候変動、脱炭素社会、再生可能エネルギー

ものづくり国内回帰、外資系企業の日本進出

労働人口の減少、人材獲得競争の激化

民間設備投資 インバウンド 等の回復

防災、減災、国土強靱化、防衛予算の増加

建設、物流業界の2024年問題

人的資本経営、人材育成、働き方改革

AIの劇的な進化



当社事業としての認識

再生可能エネルギー関連アセスメントの伸長 新たに内水氾濫解析業務が増加

防災、減災、国土強靱化事業の伸長 新たに防衛土木関連業務が見込める

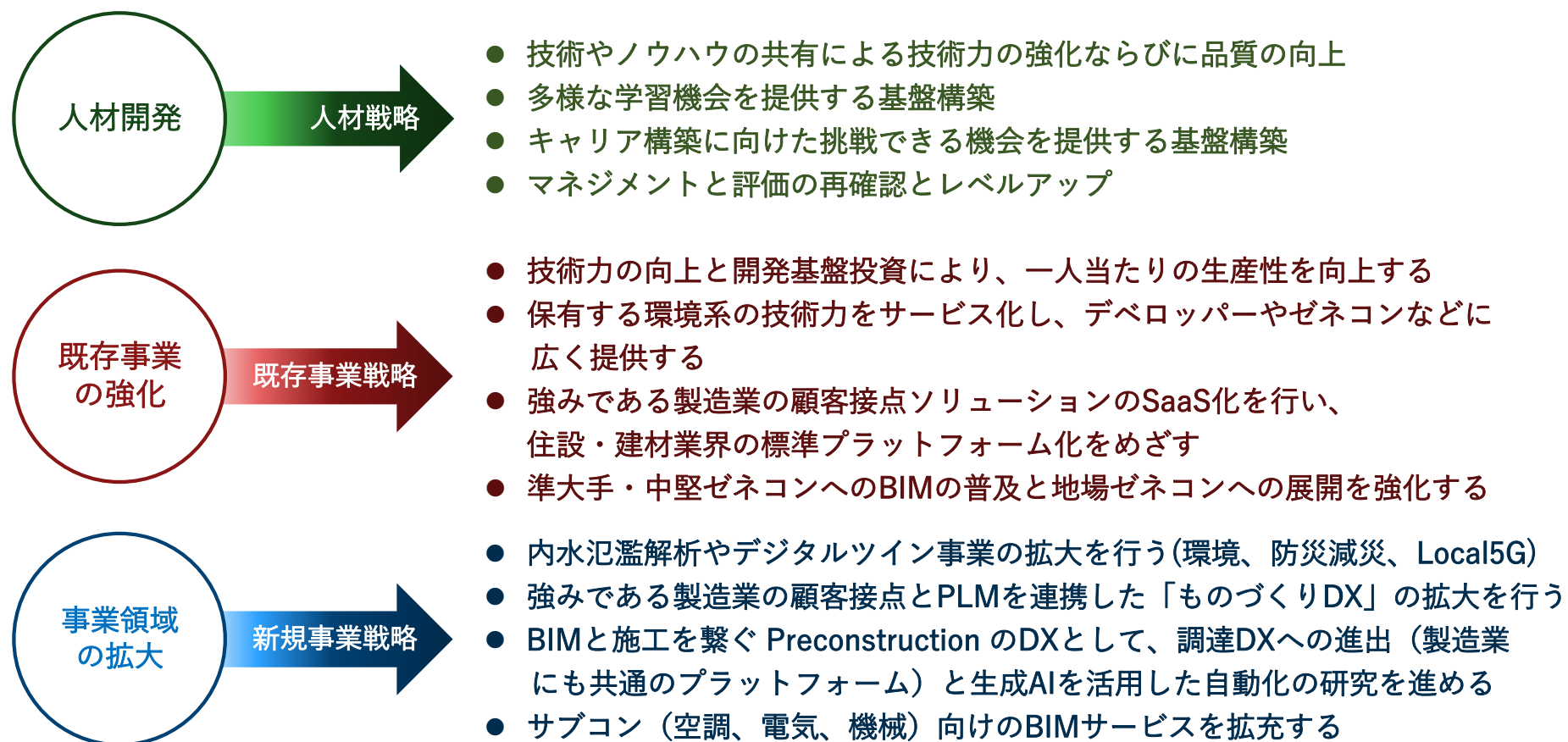
デジタルものづくりの拡大 DX基盤としてPLMの見直しが始まる 技能ナレッジのDX化が加速

BIMと施工を繋ぐ 施工前業務(Preconstruction)のDX化、AI化が拡大する

業種ごとのエコシステム化が進展 さらにエコシステム同士が繋がり異業種間でデータ活用が進む

技術の源泉は社員であり、人的資本投資を積極的に行い、会社・社員が共に成長していく

中期経営計画での実施事項



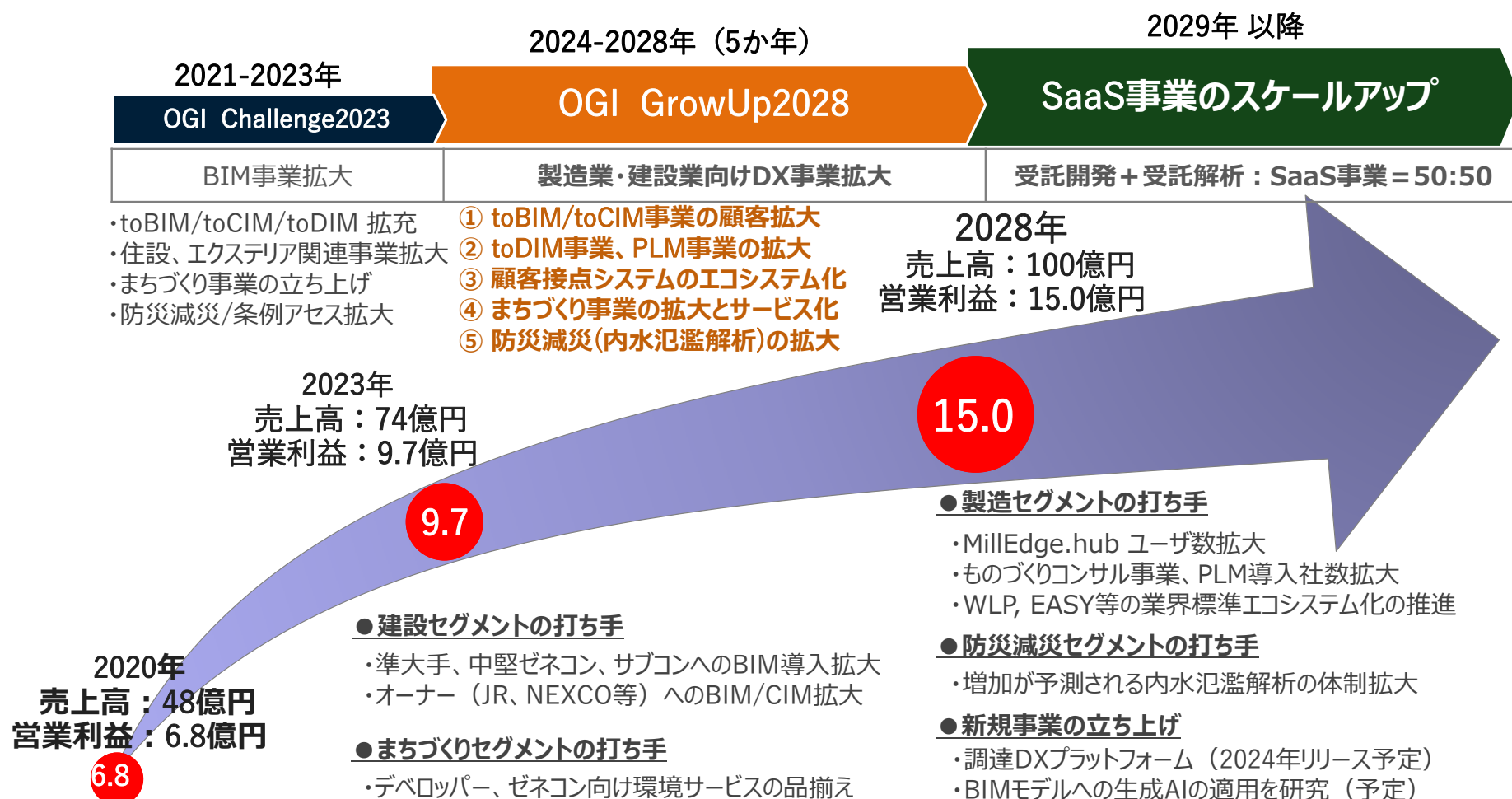
中期経営計画の計数目標

(単位：百万円)

	2023年 12月期実績	2024年 12月期計画		2028年 12月期	年平均成長率
売上高	7,419	7,800	➡	10,000	6.2%
営業利益	978	900	➡	1,500	8.9%
営業利益率	13.2%	11.5%	➡	15.0%	+ 1.8Pt
経常利益	1,048	910	➡	1,510	7.6%

中期経営計画「OGI GrowUp2028」は、当社がこれからも長期にわたり成長し続けるための施策を実行する期間とし、将来に向けたビジネスモデル変革を考慮した大幅な組織変更や、技術力の向上と蓄積を行うための人的資本投資ならびに社会の変化にいち早く対応した新サービスの提供を行うため、5か年の計画としました。

長期的な企業価値の向上をめざして





会社概要

2026年6月末現在

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー

会社概要

(2026年6月末現在)

商号	応用技術株式会社
本社所在地	〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル
代表者	代表取締役社長 小西 貴裕
設立年月日	1984年6月14日
上場市場	東証スタンダード
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
資本金	600,000,000円
発行可能株式総数	22,200,000株
発行済株式総数	5,716,800株
単元株式数	100株
大株主（議決権所有比率）	トランス・コスモス株式会社（60.24%）
株主数	1,175名
従業員数	280名

本資料に関する特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、今後の日本経済、株式市場の動向や情報サービス業界の動向、新たなサービスや技術の進展等により、大きく異なる可能性があります。

従いまして当社として、その確実性を保証するものではありません。



 <https://apptec.co.jp>

ご覧いただきありがとうございました。

 応用技術株式会社

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー